

平成23年度 大学生の就業力育成支援事業 「自分の言葉で表現できる」学生の育成  
評価結果

数値評価平均点

	外部評価		内部評価		アドバイザー評価	
	H23	H22	H23	H22	H23	H22
1 事業内容	4.4	4.2	4.4	4.3	4.4	4.0
2 就業力3項目	3.3	4.0	3.7	3.3	3.0	4.0
3 総合評価	4.3	4.0	4.0	4.5	4.0	3.5
全項目	4.2	4.1	4.2	4.2	4.1	3.9

1 事業内容(事業の実施状況)

- 各取り組みを着実に実施するために、担当責任者(教職員)を配置しています。担当分担任については、各項目の末尾に以下の記号で明記しています。  
(P)就業力育成プロジェクト室(大久保委員長)  
(T)ワーキンググループ「オムニバス講義『地域創生 I / II』の再編」(アイリッシュ委員)  
(F)ワーキンググループ「フィールドワークの改革」(探究型: 武田委員, 協同型: 高橋委員, 実務型: 大久保委員長)  
(S)ワーキンググループ「演習の改革」(菊地委員)  
(※この他、細かな作業内容等については、その都度委員会において決定しています。)

	外部評価	内部評価	アドバイザー評価	H23年度 平均点
(1) 就業力育成プロジェクト室の開設 就業力育成プロジェクト室を開設し、実施体制の基盤を構築する。(P)	5(達成している) さらなる受け入れ企業の開拓が望まれる。	5(達成している) プロジェクト室を開設し、就業力育成プロジェクト委員会やワーキンググループと組織して、全学的な規模で、探求型、共同型、実務型等のフィールドワークを企画・実践しており、成果が見られる。特に、ふるさと調査、高大連携吹奏楽音楽祭、受け入れ企業の開拓と就業体験、「3日間社長のカバン持ち体験」等の多くのユニークな企画が実施され、多くの学生がフィールドワークを行い、学生の社会や職業に関する認識が高まったことは高く評価できる。	5(達成している) いずれも、5達成していると言える。プロジェクト室の開設、フィールドワークの内容開発・受け入れ先開拓、Webポートフォリオの導入、活用など、前進した取り組みがなされたと思われる。活動があったことは評価できます。	5.0
(2) Webキャリア・ポートフォリオ利用開始と利用環境の検証・改善 Webキャリア・ポートフォリオの利用を開始し、学部・学科教育を通して、どのような経験や能力が形成されているかを学生自身が確認できるようにする。また、同ポートフォリオの運用方法を含めた利用環境の検証・改善を進める。(P, T, F, S)	4(ある程度達成している) 教員、職員の利用増加が望まれる。	4(ある程度達成している) IT技術を利用して、学生が読み書き等の基礎学力を自己評価し、教員が学生指導などを行うシステムであるWebキャリア・ポートフォリオを開発し、構築したことは評価できる。しかし、評価項目が極めて多く、入力に極めて煩雑であり、多くの学生が自発的に利用するまでには至っておらず、さらなる改善が望まれる。また、教員サイドでも、演習のような少人数教育では、口頭で学生指導を行うことが多いので、すべての教員がこのシステムを通じて学生指導を行うには、より使い勝手のよいものに改善する必要がある。	5(達成している) いずれも、5達成していると評価できます。ほぼ計画通りに推進され、学生によるWebポートフォリオへの入力が高まっているようです。利用率が高いことや、学生による事前事後評価では、事後評価高まるなどの傾向が見られ、学生に気付きが生まれている様子が感じられました。本取り組みを続けていくことが肝要かと思えます。	4.3
(3) オムニバス講義の全学実施 内容改革を行ったオムニバス講義「地域創生 I / II」を全学において開講・実施し、同科目の中の講師との討論やシンポジウムの企画等を通して、学生が自らの生き方について考え、さらに将来の進路を意識しつつ、主体的に大学生活を組み立てられるようにする。(T)	5(達成している) 学生主体の授業運営になっているところが評価できる。さらなる授業内容の充実を期待する。	5(達成している) オムニバス講義は、外部講師を迎えて働き方や生き方について学ぶ授業であるが、学生たちが外部講師や授業内容を主体的に立案し、令状まで書いており、学生参加の度合いが高く、高く評価できる。また、この講義は、全学の学生を対象とした大規模授業であり、学生参加という点において固有の困難さを伴うが、グループ(班)に分けて係を決めるなどの工夫を行い、学生参加を実現していることも評価できる。	4(ある程度達成している) 充実した取り組みであるように思います。4ある程度達成していると評価できます。講師の慣れ、得手不得手の問題もあるでしょう。また、全体の構成やねらいも再検討することになるでしょう。いずれにしても、レポートにある課題を改善していくことが大事だと思います。講師自身の学びが大きいのではないかと推察されますので、自らの学びの機会であると、講師の招聘を続けてもらえればと思います。	4.6
(4) 社会調査実習の全学実施 一部の学科でのみ開講されていた「社会調査実習」を、様々な学部・学科の学生が多様な視点、例えば経営学や社会学の視点等から、企業や地域等に関する調査活動に取り組めるように、全学において開講・実施する。また、テーマ・内容開発を引き続き行い、必要な活動受入先の開拓・選定を行う。	5(達成している) 授業科目が増えたことは評価できる。また、授業内容をフィールドワークを取り入れたものへと改善しているところが評価できる。	4(ある程度達成している) 5種類の調査実習が行われ、それぞれの担当教員の下で学生が主体的に活動しており、学生の聴く力・話す力・考える力を向上させるうえで一定の成果が見られ、評価できる。ただし、実施された調査実習は福祉社会学部に限定されており、全学的なものにならないので、この点については改善する必要がある。	4(ある程度達成している) 4ある程度達成していると評価できます。本取り組みはとて難度が高いと思います。調査実習を通じての学生の学びは大きなものがあると思われる。調査受け入れ先の選定、社会的貢献への意味づけという大きなハードルがありますが、実習で得るものも大きいので、今後の活動が期待されます。	4.3
(5) 海外ビジネス研修の新設 平成24年度から開講する科目「海外ビジネス研修」について、実学的な専門教育という観点からの内容開発と必要な活動受入先の開拓・選定を行う。(F)	4(ある程度達成している) 授業科目として位置づけ、事前事後指導を含め、体系的なカリキュラムとして実施してほしい。海外でのインターンシップという取組そのものは高く評価できる。	4(ある程度達成している) 本年度は、平成24年度実施に向けて、海外ビジネス研修の受け入れ先の開拓・選定に尽力し、鹿児島相互信用金庫と大連外国語学院の協力を得て、大連での海外インターンシップの募集までこぎつけたことは評価できる。海外受け入れ先でトラブル等が生じないように、周到な準備を進めることが望ましい。	4(ある程度達成している) 4ある程度達成していると、評価できます。24年度開設のため、来年度への期待が膨らみます。本取り組みはとて重要だと思えます。民間企業はグローバル化に向けて具体的に外国人の採用活動に入っています。10年もすれば上司が外国人という会社が普通になるかもしれません。学生には、外国人と共同作業をするということを通して、広い視野やコミュニケーションスキルなどを身につける必要性を体感してほしいと思います。	4.0
(6) 演習(履修指定及び卒業研究の必須化)の全学実施 平成23年度入学生から、演習の履修指定及び卒業研究の必須化を全学で実施し、学生が大学での学習体験をさらに深化・集大成させ、成果として何かを「つくりあげる」機会を得られるように、運用面での改善を図る。また、フィールドワーク的要素を取り入れる等、実学的な専門教育という観点から演習の内容を各学科で引き続き検討し、就業力育成プロジェクト室を中心に再構築する。(S)	4(ある程度達成している) 授業内容を体系化すると共に、明確なカリキュラムへと発展させてほしい。	5(達成している) 全学で演習の必修化・履修指定化を決定し、全学生が卒業研究(卒業論文等)を作成する体制を実現したことは高く評価できる。このことにより、本学の学生が「自分の言葉で表現できる」能力を向上させることが期待される。今後は、一人ひとりの教員が、すべての学生に対して適切な指導を行い、本事業の成功に努めることが重要である。	5(達成している) 5達成していると、評価できます。研究計画や仮説を立てる(P)→調査する(D)→分析、考察する(C)→新たな気づきを得る(A)というサイクルを回せるようになることは、就業力そのものを身につけることにほかならないと思います。このサイクルを一人で回せる場合もあるでしょうが、おおくは人の協働が求められます。	4.6
(7) 連携プロジェクト実習(仮称)の内容開発 平成24年度に開講する「連携プロジェクト実習(仮称)」の内容開発と必要な活動受入先の開拓・選定を行う。(F)	4(ある程度達成している) 単なるイベントではなく、授業としての内容を考案すべきである。	5(達成している) かごしま市商工会や慈眼寺通り会(商店街)との間で学生参加の連携事業を推進したほか、情報高校・南高校・錦江湾高校と協力して吹奏楽音楽祭を実施し、参加学生の達成感も大きく、高く評価できる。これらの内容を就業力の向上に結びつけていくことが期待される。	4(ある程度達成している) 4ある程度達成していると、評価できます。特に、「教職員のフィールドワークの体験拡充」が課題に挙がっていたことに注目しました。教員のみならず職員がフィールドワークを教える立場になることは、職員にとって大きな学びの効果が期待できると言えそうです。職員のスキル向上によって、教育としての厚みが増し、学生にとっては選択肢が広がることも意味します。まさに全学的な取り組みと言えそうです。	4.3
(8) 他大学における取り組みの実地調査 大妻女子大学のCDP及びOMAなど他大学の取り組み内容を調査し、本学の改善に反映させる。(P, T, F, S)	5(達成している) 調査結果を分析して、本取組の課題に生かしてほしい。	4(ある程度達成している) 大妻女子大学においてキャリア教育、桜美林大学・嘉悦大学・東京経済大学において初年次教育に関する調査を実施して、それぞれ本学の参考となる情報を得ており、評価できる。今後、得られた結果を、本学の新生ゼミナールの改善などに活用していくことが必要である。	3(どちらともいえない) 3どちらともいえないと、評価されます。どのような学びがあったのか、どのような点を貴学に展開、応用できそうなのか、どのような示唆が得られたのか、あれがよかったと思います。	4.0

	外部評価	内部評価	アドバイザー評価	H23年度 平均点
(9) 全国合同フォーラムへの参加 全国合同フォーラムに参加し、他地域・大学の 大学生の就業力育成支援事業に関する情報を収集し、研鑽を深める。(P) 文部科学省より、平成23年度大学教育改革プログラム合同フォーラムについては、開催を見合わせる旨の連絡があった。なお、今年度は大学地域コンソーシアムの一環として、鹿児島大学で開催された平成23年度FD・SD合同フォーラムのパネルディスカッションにおいて、本学の事例を報告した。また、来年リクルート「カレッジマネジメント」誌にも、本学の取り組みが掲載される。	3(どちらともいえない) 独自の報告会等を開催すべきだったのではない。	3(どちらともいえない) 文部科学省の都合によって全国合同フォーラムが開催されなかったため、参加が実現しなかった。しかし、鹿児島大学で開催されたFD・SD合同フォーラムに参加したこと、リクルート「カレッジマネジメント」誌に本学の取り組みが紹介されことなど、一定の情報収集・情報発信を行ったことは評価できる。	5(達成している) 5達成していると、評価できます。 貴学は積極的に情報を公開され、また同時に積極的に情報収集活動にあたっています。	3.6
(10) 内部評価・外部評価の実施 委嘱した内部・外部評価委員に、本取り組み全体と本年度の実績等に関する評価を実施してもらい、その結果を次年度以降の計画に反映させる。(P)	5(達成している) 詳細な項目ごとに公正な外部評価を行っている。	5(達成している) 本年度の活動を詳細に記した報告書を作成し、その報告書に基づいて、外部評価・内部評価を受けており、評価できる。また、前年度の評価を踏まえて、本年度の活動を行っており、適切である。 なお、簡単な自己評価書が作成できれば、より適切である。	5(達成している) 5達成していると、評価できます。 順序立てて進めている点は評価できます。	5.0
(11) 実施済みの取り組みの検証・改善 フィールドワークをはじめとした連携先の評価や学生の自己評価等を分析・活用して、実施済み事業の取り組みの検証・改善を行う。(T, F, S)	4(ある程度達成している) より全体的・包括的な検証が望まれる。	4(ある程度達成している) インターンシップ受け入れ企業による学生に対する評価、演習などにおける学生の自己評価を詳しく分析し、コミュニケーション能力の不足など、本学学生の特性を浮き彫りにするとともに、今後の取り組みのための重点課題を明らかにしたことを評価する。	4(ある程度達成している) 4ある程度達成していると、評価できます。 受け入れ企業からはおおむね良好な評価をいただいたようです。 インターンシップ後の報告書を見ると、学生によって学びの差が大きいに感じました。 学力や基礎能力による差や取り組み姿勢による差であったのかもしれませんが、 とはいえ、学生の底上げのためには、少しシビアな見方をすることも必要だと思います。	4.0
(12) 平成23年度活動報告書の作成・公表 活動報告書を作成する過程で平成23年度の取り組みの成果や課題を最終確認し、浮き彫りとなった課題については、次年度以降の計画の改善に繋げる。また、同報告書の公表によって、本年度の取り組みの成果等を地域社会に向けて情報発信する。(P)	5(達成している) 大変詳細な報告書を作成している。	5(達成している) 報告書には本年度の活動内容が詳細に記述され、事業ごとの課題が確認されており、次年度の改善に繋げようとする姿勢が窺われ、適切である。報告書は関係者(機関)に配布するほか、いろいろな機会に本事業について情報発信しており、評価できる。	5(達成している) 5達成していると、評価できます。 本取り組みそのものが、貴学の本気度の表れではないかと思えます。	5.0

## 2 学生就業力評価項目(学生の自己評価及び企業アンケートの定量的評価、定性的評価)

	外部評価	内部評価	アドバイザー評価	H23年度 平均点	H22年度 平均点
(1) 聴く力(傾聴力)	4(ある程度達成している) インターンシップでの自己評価、企業評価では目標の数値を超えているが、事前事後評価では下回っている。	4(ある程度達成している) 学生の自己評価では、すべての科目で事後評価が事前評価よりも高くなっており、事後評価の平均点は概ね4.0に近い水準に達している。このことは評価できる。 また、インターンシップ受け入れ企業の評価では、平均値は4.2であり、他の評価項目に比べて高かった。	3(どちらともいえない) 3どちらともいえない、と評価されます。 相手に不快な思いをさせることなく、聴ける状態かと思えます。 聴くためには考えなければならず、これからも努力は必要でしょう。	3.6	4.0
(2) 話す力(発信力/表現力)	3(どちらともいえない) 目標値に達していない。	3(どちらともいえない) 学生の自己評価では、事後評価の平均点が概ね2~3点台で、他の評価項目よりも低く、しかも質問項目によっては事後評価が事前評価よりも低いものもある。事前評価・事後評価とも平均点が2.0に届かない科目もある。 インターンシップ受け入れ企業の評価では、平均値が3.8となっている。これらの数値は本学学生の「話す力」が弱いことを示している。	3(どちらともいえない) 3どちらともいえない、と評価されます。 企業側からの印象評価や学生の自己評価の一部から、苦手な能力だと思われます。おとなしい学生たちにはしんどい事かもしれませんが、数をこなす、場数を踏むなどして努力する必要があります。	3.0	3.7
(3) 考える力(理解力)	3(どちらともいえない) 目標値に達していない。	4(ある程度達成している) 学生の自己評価では事後評価の平均点は3.5前後で、高いとはいえないが、全科目で事後評価が事前評価を上回っていることは評価できる。しかし、インターンシップ受け入れ企業の評価では、この評価項目の平均値は3.7で、最も低い。本学学生は「考える力」が弱いという結果となっている。	3(どちらともいえない) 3どちらともいえない、と評価されます。 聴く力と話す力と合わせてベースになる力です。 先天的なものではなく、後天的な能力ですから、取り組み続けることだと思います。	3.3	3.7

## 3 総合評価(プロジェクト全体の総合評価)

	外部評価	内部評価	アドバイザー評価	H23年度 平均点	H22年度 平均点
(1) 大学時代に取り組んだことを、自信を持って、「自分の言葉で表現できる」学生を育成	4(ある程度達成している) 取組そのものは計画通りに展開されているが、それが学生の自己評価や企業からの評価に今ひとつ結びついていない。次年度に期待したい。	4(ある程度達成している) フィールドワークを中心に学生に多様な経験を提供し、また学生による報告会などの取り組みを行っていることは高く評価できる。この取り組みに参加した学生は、一定程度、自分の言葉で表現できる力が向上したと思われる。 しかし、参加した学生数は限られている。また、一部のリーダー的学生の動きだけが目立つ傾向が指摘されている。これらの点は改善の余地がある。	4(ある程度達成している) 4ある程度達成していると、評価できます。 まだ始まったばかりだと思いますが、目標に向かって進んでいると思います。 他にも様々な手法、アイデアがあると思いますので、今後も展開いただければと思います。	4.0	3.7
(2) 教育改革を行い、効果性の高い育成プログラムを社会や他大学へ提案	5(達成している) 全体として、ユニークで実践的な教育活動をを行い、学生の就業力を高める取組を行っている。	4(ある程度達成している) 演習の改革など、全学的に教育改革が進められていることを高く評価する。学生全員に演習を受講させ、全員に卒業研究を課すことにより、学生の読む力・聴く力・考える力・表現する力などを向上させ、就業力を育成する効果が期待できる。教員の教育力も試されている。 なお、大学ホームページで情報発信しているほか、様々な機会を利用して公表に努めている。	4(ある程度達成している) 4ある程度達成していると、評価できます。 教員のみならず職員も教育機会に参加する必要性があるとの認識から、教育改革は進んでいると思えます。またプログラムも充実化の方向だと思えます。	4.3	3.7
(3) 学生の卒業後の社会的・職業的自立に向けた新たな取組み(産業界との連携による実学的専門教育を含む)	4(ある程度達成している) 産業界とは円滑に連携を進めている。ただ、学生の実際の就業力を高めているかどうかは課題である。	4(ある程度達成している) 協調型フィールドワークで地域との連携事業を推進しているほか、鹿児島地域を中心に企業との連携を図り、製造業・流通業・金融機関など多数の企業において、インターンシップを実施している。これらの取り組みに参加した学生は期待された成果をあげており、就業力育成教育の一環として高く評価できる。 また、これまでも、本事業の取り組みとして、鹿児島相互信用金庫と連携して「3日間社長のカバン持ち体験」を推進してきたが、さらに平成24年度から中国の大連でインターンシップを実施することを計画しており、今後の展開が期待できる。	4(ある程度達成している) 付け加えるとすれば、全体にフィードバック機能が少ないように思われました。 厳しいフィードバックは学生にとっては辛いことですが、大人や他者からのフィードバックで気づき、成長していくことは大いに期待できます。 ポジティブフィードバックとともに、どこがどのようにできていないのか、どう努力するのがいいのか、など教育的指導は必要だと思います。	4.0	4.3